

**令和4年度
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ
公募説明会**

**令和4年4月
文部科学省 科学技術・学術政策局
人材政策課 人材政策推進室**

目次

1. 概要

2. スケジュール

3. 参考

女性の活躍推進に関する動向

■ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法) (H27.9.4公布・施行)

○国や地方公共団体、民間事業主に「事業主行動計画」の策定・公表等の義務付け(H28.4~)

■ 「第6期科学技術・イノベーション基本計画」(R3.3閣議決定) ※令和3年度からの5カ年計画

- 大学教員のうち、教授等(学長、副学長及び教授)に占める女性割合として早期に20%、2025年までに23%の目標値を設定
- 女性研究者の新規採用割合の向上(⇒理学系20%、工学系15%、農学系30%、医学・歯学・薬学系合わせて30%、人文科学系45%、社会科学系30%)
- 男性・女性研究者双方が育児・介護と研究を両立するための環境整備やサポート制度等の充実
- 中高生、保護者、教員等に対し魅力を伝える活動、女性の理工系への進学を促進 他

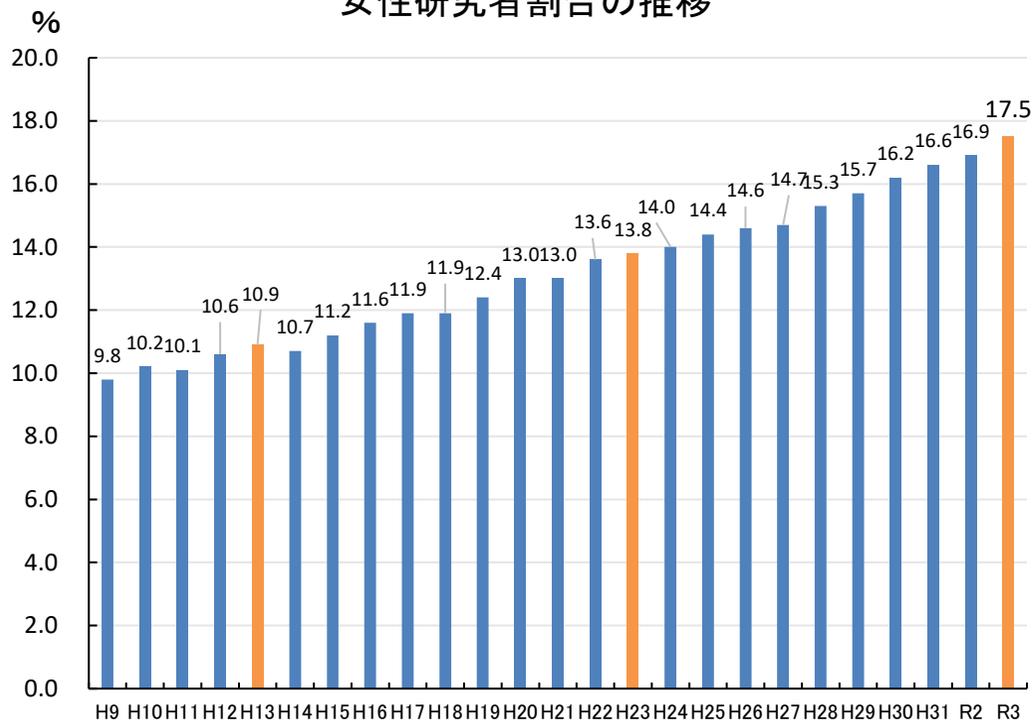
■ 「第5次男女共同参画基本計画」(R2.12閣議決定) ※令和3年度からの5カ年計画

- 科学技術・学術分野における女性の採用・登用の促進及び研究力の向上
- 科学技術・学術分野における女性人材の育成等
- 男女共同参画と性差の視点を踏まえた研究の促進
- 研究活動と育児・介護等の両立に対する支援及び環境整備
- 大学や研究機関におけるアカデミック・ハラスメントの防止
- 次代を担う理工系女性人材の育成
- 理工系分野に関する女子児童・生徒、保護者及び教員の理解促進 他

女性研究者割合の推移と国際比較

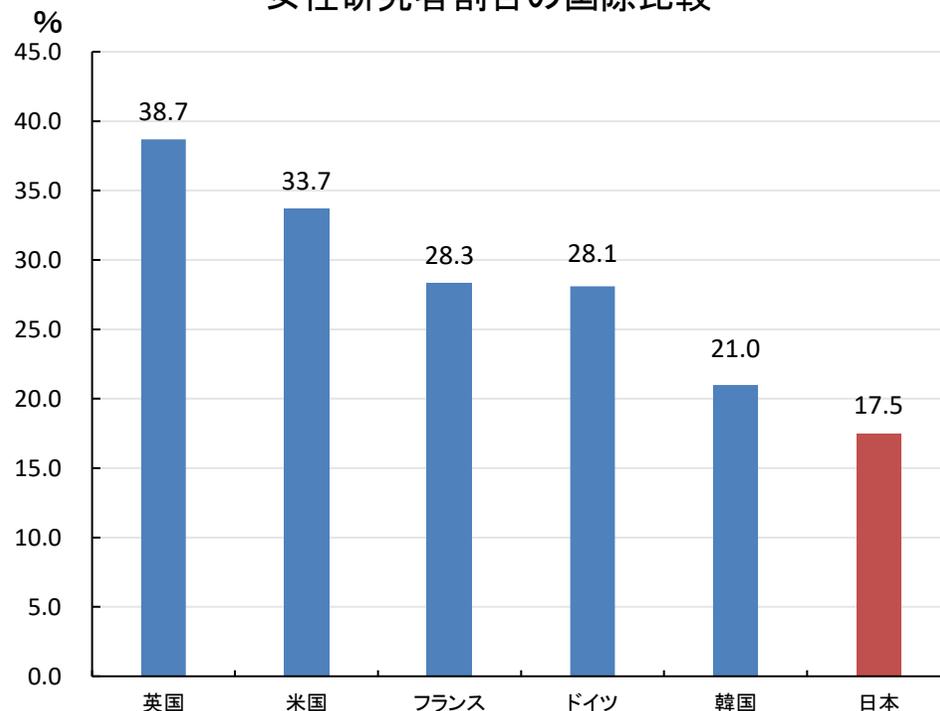
研究者総数に占める女性研究者割合も20年間で1.6倍に増加しているが、諸外国と比較してなお低い水準。

女性研究者割合の推移



(出所)総務省「2021年(令和3年)科学技術研究調査」

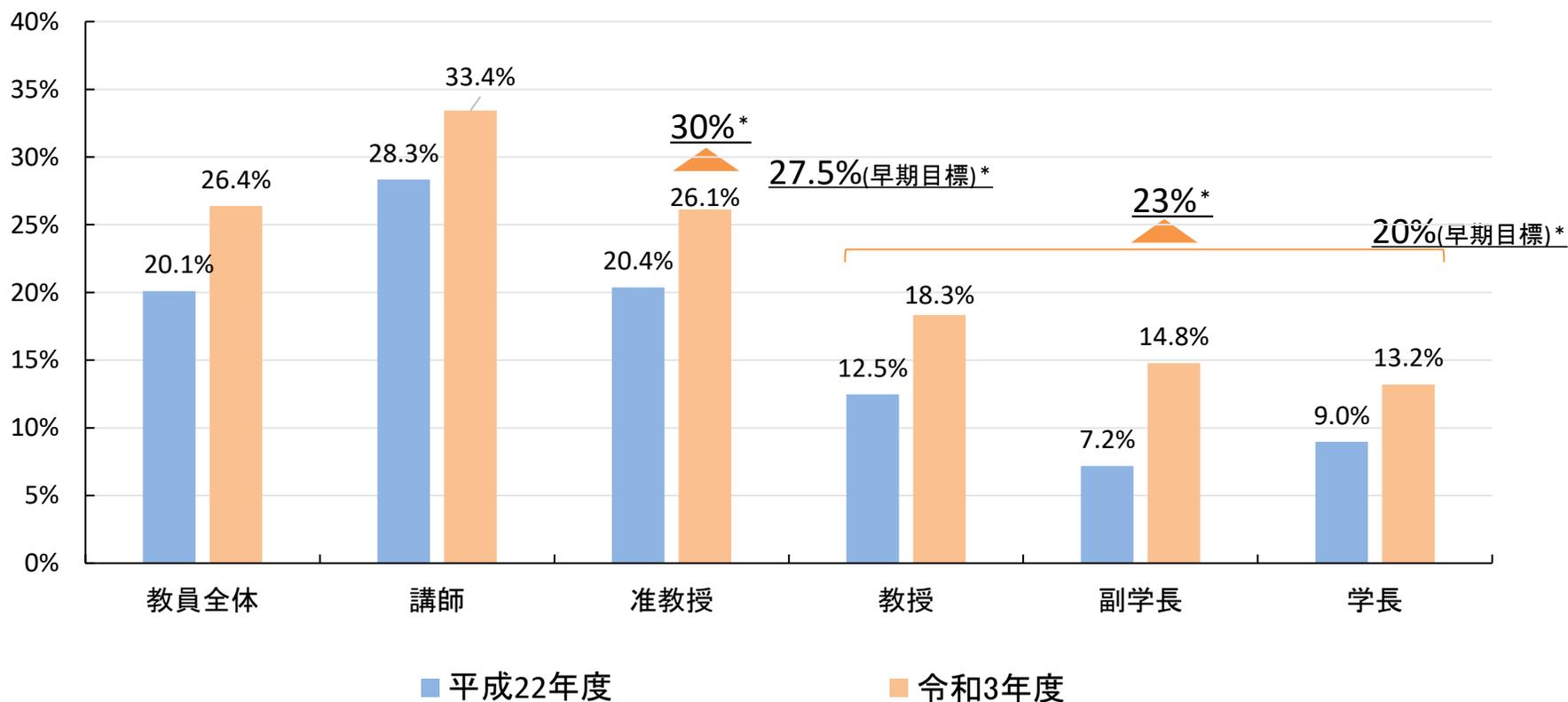
女性研究者割合の国際比較



(出所)総務省「2021年(令和3年)科学技術研究調査」
OECD“Main Science and Technology Indicators”
NSF“Science and Engineering Indicators 2020”を基に文部科学省作成

大学における職位別の女性教員の在籍割合

女性教員の在籍割合は増加しているが、学長・副学長・教授の女性の割合はなお低い状況。

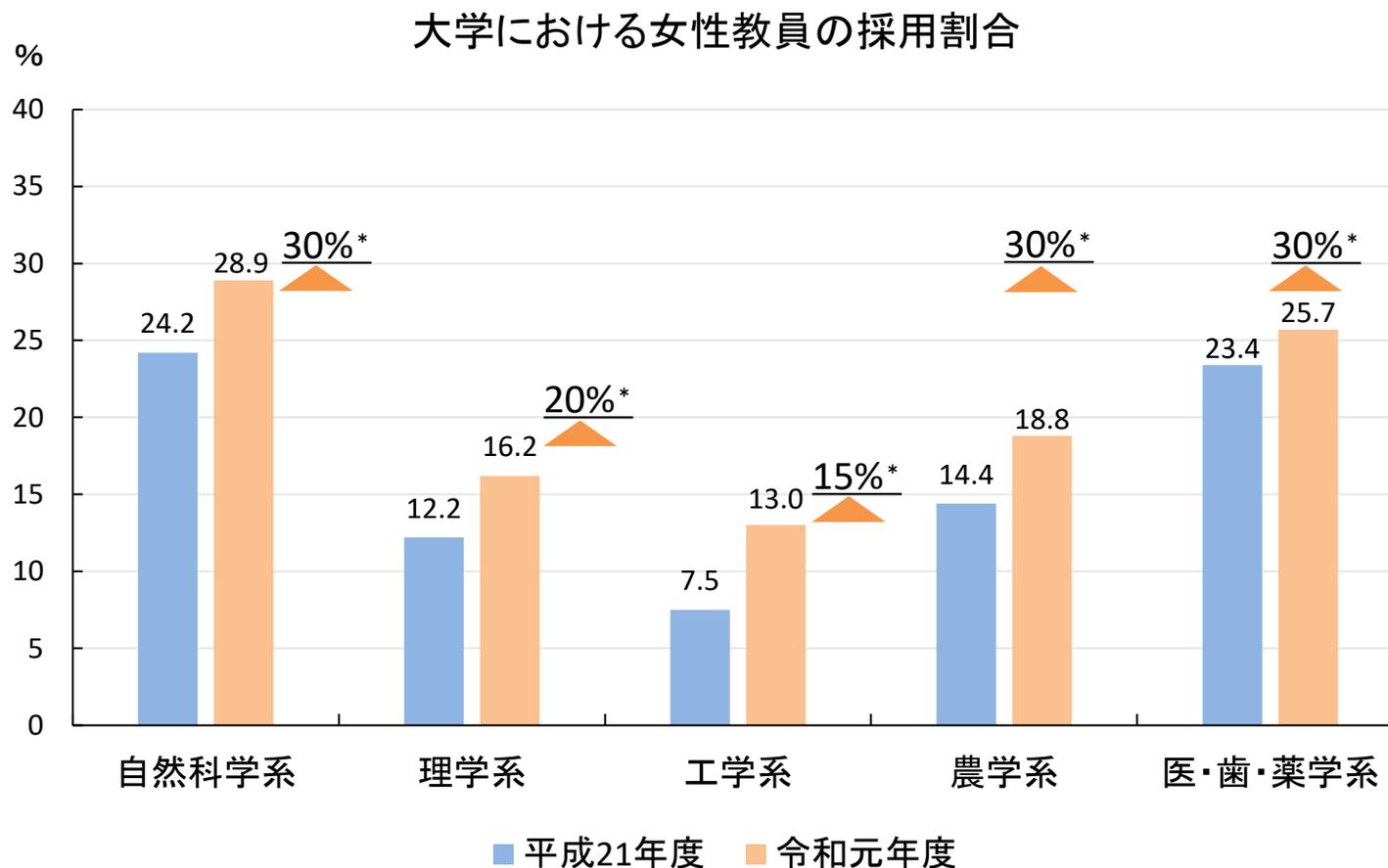


(出所) 学校基本調査の結果に基づき、文部科学省作成。

* : 第5次男女共同参画基本計画及び第6期科学技術・イノベーション基本計画における成果目標

大学における女性教員の採用割合

自然科学系の女性教員の採用割合は増加しているが、目標値に比してなお低い状況。



(出所)文部科学省調べ

(注)女性の教授、准教授、講師、助教の採用割合。

自然科学系は、理学、工学、農学、保健（医・歯・薬学系を含む）の合計。

*：第6期科学技術・イノベーション基本計画における目標

背景・課題

- 人口減少局面にある我が国において、研究者コミュニティの持続可能性を確保するとともに、多様な視点や優れた発想を取り入れ科学技術イノベーションを活性化していくためには、女性研究者の活躍促進が重要であるが、女性研究者割合を諸外国と比較すると依然として低い水準にあり、特に上位職に占める女性研究者の割合が低い状況。
- そのため、女性研究者が出産、育児等のライフイベントにかかわらず研究を継続できる環境の整備や、上位職登用の促進が必要。

【統合イノベーション戦略2021（令和3年6月18日閣議決定） 抜粋】

○第6期基本計画や第5次男女共同参画基本計画に基づき、大学等における新規採用・教授等に占める女性割合の促進に向けた更なる取組を推進

【第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定） 抜粋】

【科学技術・イノベーション政策において目指す主要な数値目標】大学教員のうち、教授等（学長、副学長、教授）に占める女性割合：早期に20%、2025年度までに23%（2020年度時点、17.7%）

事業概要

事業の目的・目標

- 研究と出産・育児等のライフイベントとの両立や女性研究者の活躍促進を通じたリーダーの育成を一体的に推進するダイバーシティ実現に向けた大学等の取組を支援する

ダイバーシティ実現に向けた取組の支援

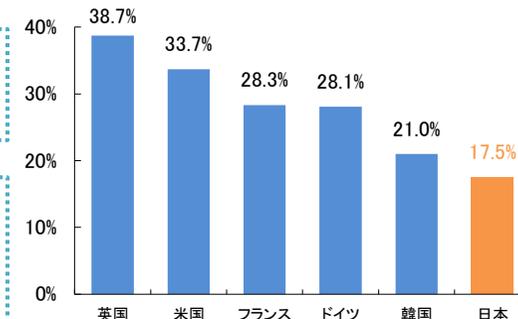
- 対象機関：国公立大学、国立研究開発法人等
 - 支援取組：
 - ① **女性リーダー育成型** 教授・准教授等の上位職への女性研究者の登用を推進するため、**（新設）** 挑戦的・野心的な数値目標を掲げる大学等の優れた取組を支援
 - ② **特性対応型** 分野（特に女性研究者の割合が少ない理学や工学など）や機関の研究特性や課題等に対応し、研究効率の向上を図りつつ、女性研究者の活躍を促進する取組を支援
- ※牽引型・先端型・全国ネットワーク中核機関についてはR3年度までに採択された機関のみ継続実施

- 事業期間：①6年間（うち補助期間5年間）、②6年間（うち補助期間3年間）
- 支援金額：①上限70百万円程度/年・件、②上限40百万円程度/年・件
- 採択件数：①新規5件程度、②新規2件程度（他12件を継続支援）

調査分析等の実施

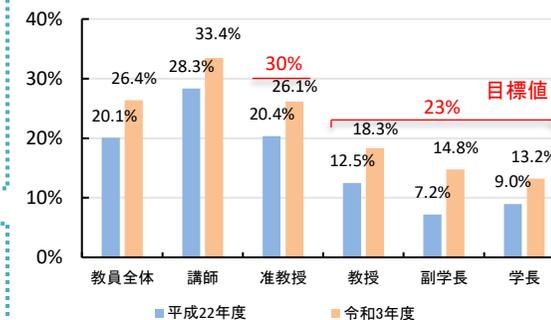
- 対象機関：国公立大学、国立研究開発法人等
- 事業期間：2年間
- 支援取組：女性研究者の活躍促進に資する海外の優れた取組に関する調査分析
- 支援金額：25百万円程度/年・件〔4件程度（うち新規2件程度）〕

■ 女性研究者割合の国際比較



※「科学技術研究調査報告」（日本）、
「Main Science and Technology Indicators」（英国、韓国、フランス、ドイツ）、
「Science and Engineering Indicators 2020」（米国）より作成

■ 大学における職位別の女性教員の在籍割合



※「学校基本調査」より作成
*第5次男女共同参画基本計画及び
第6期科学技術・イノベーション基本計画における成果目標

- 我が国における女性研究者の割合は、これまでの女性研究者支援に係る取組等の結果、増加傾向にあるが、欧米の先進諸国と比べると未だ低く、また、女性研究者の上位職への登用もなかなか進まない状況
- 男女共同参画の観点はもとより、多様な視点や発想を取り入れ、研究活動を活性化し、組織としての創造力を発揮する上でも、女性研究者数の増加に引き続き取り組むとともに、女性研究者の研究力向上を図ることは極めて重要



女性研究者がその能力を最大限発揮できるよう、研究と出産・育児等のライフイベントとの両立や女性研究者の研究力向上を通じたリーダーの育成を一体的に推進するダイバーシティ実現に向けた大学等の取組を支援

女性研究者活躍促進に関する目標

- 女性研究者の新規採用割合について、2025年までに、理学系20%、工学系15%、農学系30%、医学・歯学・薬学系合わせて30%、人文科学系45%、社会科学系30%の目標値（第6期科学技術・イノベーション基本計画）
- 大学の教員に占める女性の割合として、教授等（学長、副学長及び教授）早期に20%、2025年までに23%の目標値（第5次男女共同参画基本計画）

若手研究者活躍促進に関する目標

- 40歳未満の大学本務教員の数を1割増加させるとともに、将来的に、我が国全体の大学本務教員に占める40歳未満の教員の割合が3割以上となることを目指す（第6期科学技術・イノベーション基本計画）

女性リーダー育成型

- 教授・准教授等の上位職への女性研究者の登用を推進するため、**挑戦的・野心的な数値目標**（※）を掲げ、**独自のアイデアで総力を挙げ取り組む機関**に対して支援

※挑戦的・野心的な数値目標とは、第5次男女共同参画基本計画及び第6期科学技術・イノベーション基本計画で**政府目標として掲げている目標値を大幅に上回るような、飛躍的な目標値**のほか、各機関の規模や現状を踏まえた上で、**既存の取組の単なる延長線上にない十分に認められる目標値**であって、**政府目標の達成への寄与が見込まれる数値**なども想定されます。

- 高い数値目標の達成のために、各機関により異なる様々な課題に対応する必要があるため、**幅広い取組を支援対象とすることが可能**

特性対応型

- 分野や機関における研究特性や課題等について分析し、その分析結果を踏まえた目標を掲げ、研究効率の向上を図りつつ、女性研究者の活躍を促進する取組に対して補助

調査分析

- 女性研究者の活躍促進に資する、海外の大学・研究機関等における優れた取組事例に関する調査・分析を行う取組に対して補助

女性リーダー育成型、特性対応型

- 各機関・地域の特色を踏まえた、女性研究者の活躍推進に加え、女性研究者を含む若手研究者の育成・確保をはじめ総合的なキャリアマネジメントに向けた機関としての目標・行動計画※を設定・公表することを要件とします。

※ 当該目標・行動計画は、以下の計画等と関連していることを要件とします。

- ・ 国立大学法人、大学共同利用機関法人及び独立行政法人については、当該法人の中期目標・中期計画
- ・ 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定機関（上記法人を含む）については、当該計画
- ・ その他、各機関における中長期的な戦略（機関として策定・公表しているもの）

※ 各取組の推進に当たっては、「第6期科学技術・イノベーション基本計画」や「第5次男女共同参画基本計画」に掲げる目標値の達成に寄与することが望まれます。

女性リーダー育成型

- 対象機関：[代表機関] 大学、大学共同利用機関法人、独立行政法人
[共同実施機関] 同上
※ 単一の機関による申請、複数機関による共同申請のいずれも可
- 支援取組：教授・准教授等の上位職への女性研究者の登用を推進するために掲げた野心的・挑戦的な数値目標の達成に必要な**ほぼすべての取組**
※ 機関としての目標・行動計画の設定・公表が必要
- 選定件数：5件程度
- 補助金額：3,500万～7,000万円／年（上限）
- 実施期間：6年間（うち補助期間5年間）
※ 各機関の自立的運営の確立に向けて、補助期間終了後も自己資金での運営が前提

女性リーダー育成型

- 「女性リーダー育成型」では、ほぼすべての取組を支援。特に、
 - 女性研究者の研究費（上限の撤廃）
 - 女性研究者の雇用経費（上位職との差額に限る）について新たに支援可能。

- ただし、以下の取組は補助対象となりません。
 - 中高生及びその保護者のみを対象とした取組
 - 施設の建設や改修に係る経費
 - 保育所の整備、保育士の雇用
 - その他、科学技術人材育成費補助金の各種規程で認められない経費など

女性リーダー育成型

1. 目標・行動計画の妥当性、効率性

- (1) 目標の妥当性（**上位職登用にあたり挑戦的かつ野心的な数値目標**（第5次男女共同参画基本計画及び第6期科学技術・イノベーション基本計画で掲げている政府目標を大きく上回る目標値 等）
- (2) 行動計画の妥当性・効率性（**意欲的かつ挑戦的・具体的であり達成可能な計画**、企業や海外ファンディング機関等の外部資金の活用、**女性研究者の上位職登用割合や新規採用割合等に係る国の目標値達成への寄与** 等）

2. 取組内容の妥当性、期待される成果

- (1) 目標の達成及び計画の実施に当たって、**具体的かつ効果的な取組**が提案されているか
- (2) 取組内容や期待される成果が、単に資金の投下のみにより実現されるものではなく、**知見の提供や仕組構築の支援等として他の機関へ移転可能なものか**どうか
- (3) **国の基本計画で設定された目標値の達成への寄与**が期待できるか

3. 補助期間（5年間）及び補助事業期間（6年間）の終了後における継続性

特性対応型

- 対象機関：大学、大学共同利用機関法人、独立行政法人
（単一の機関による取組）
- 支援取組：分野や機関における研究特性や課題等についての分析結果を踏まえた目標を掲げ、研究効率の向上を図りつつ、女性研究者の活躍を促進する取組
博士後期課程の女子学生を対象とした学内フェロースhip制度等の構築に係る取組
※ 機関としての目標・行動計画の設定・公表が必要
- 選定件数：**2件程度**
- 補助金額：**4,000万円／年（上限）**
- 実施期間：**6年間（うち補助期間3年間）**
※ 各機関の自立的運営の確立に向けて、補助期間終了後も自己資金での運営が前提

特性対応型

➤ 研究特性や課題等について（例）

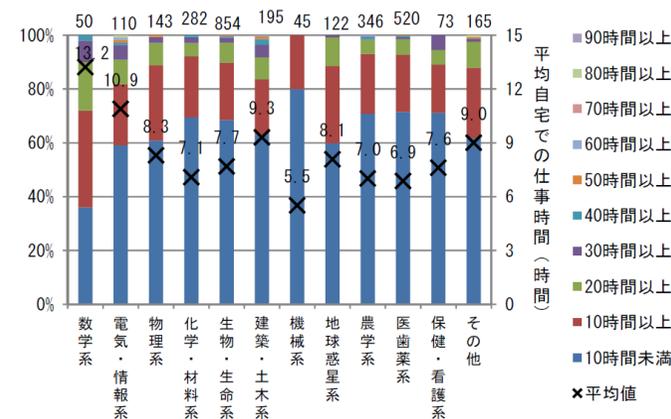
（分野）

- ❑ 在宅勤務など研究とライフイベントの両立が比較的容易な研究分野にもかかわらず、女性研究者の割合が低い
- ❑ 博士課程（後期）の女性割合に比べ、当該分野の女性教員の採用割合が低い

（機関）

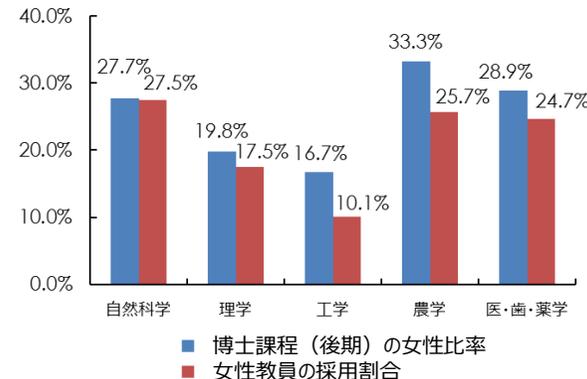
- ❑ キャンパスが複数に分散していることで研究活動の効率化に影響が生じている
- ❑ 研究室の管理業務など研究効率の向上に向けて全学的に取り組む余地がある

■ 専門分野別の自宅での仕事時間（1週間あたり）（女性）



出典：「第四回 科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」
男女共同参画学協会連絡会（2017）

■ 大学における博士課程（後期）の女性比率及び女性教員の採用割合（平成28年度）



出典：博士課程（後期）の女性比率は、学校基本統計に基づき、文部科学省作成。
女性教員の採用割合は、教授、准教授、講師、助教に係るもので、文部科学省調べ。
自然科学は、理学、工学、農学、保健（医・歯・薬学系を含む）の合計。

特性対応型

➤ 「特性対応型」では、例えば以下のような取組を支援。

（研究効率の向上に係る取組）

- ライフイベントを迎えた女性研究者が効果的・効率的に研究を行うための、実験ノートの電子化、AI・IoTの活用等による研究室のスマートラボラトリ化等に係る取組
- 女性研究者割合が特に低い分野における研究活動の効率化を図るための、大学の異なるキャンパス間や遠隔での研究遂行、在宅勤務等を可能とする研究環境の整備等に係る取組

（研究力の向上に係る取組）

- 先端的、産業ニーズの高い分野における、産学連携による共同研究等を通じた女性研究リーダーの育成を図るための取組
- 当該機関において女性研究者割合や博士課程への女子の進学割合が低く、底上げが必要な分野における、裾野拡大のための学生・保護者・教員等向けの啓発活動、博士課程の女子学生を対象とした学内フェロシップ制度等の構築を通じた支援等の取組

特性対応型

1. 目標・行動計画の妥当性、効率性

- (1) 目標の妥当性（分野や機関の研究特性や課題等について、機関全体や部局等の現状に係る分析結果を踏まえた目標（KPI設定等）等）
- (2) 行動計画の妥当性・効率性（意欲的かつ挑戦的・具体的であり達成可能な計画、女性研究者が効果的かつ効率的に研究を進めるために研究活動の効率化等を図るもの等）

2. 取組内容の妥当性、期待される成果

- (1) 研究効率の向上等のための取組（研究効率の向上に向けた、具体的かつ効果的な取組が提案されているか等）
- (2) 研究力の向上等のための取組（研究業績の向上を通じたリーダー育成の効果等）
- (3) ダイバーシティ研究環境整備のための取組（機関の目標・計画達成への寄与等）

3. 補助期間（3年間）及び補助事業期間（6年間）の終了後における継続性

調査分析

- 対象機関：大学、大学共同利用機関法人、独立行政法人、高等専門学校、研究所等
（複数機関（2機関程度以上）による共同申請を原則）
- 支援取組：代表機関と共同実施機関における女性研究者の活躍促進に係る取組の調査・分析を行い、その分析結果を踏まえ、我が国の女性研究者の活躍促進のための方策の検討に資する海外の取組事例の調査・分析を行う取組
- 選定件数：2件
- 補助金額：2,500万円／年（上限）
- 実施期間：2年間

注）令和4年4月1日現在、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（全国ネットワーク中核機関（群））、（調査分析）」に選定され、事業を実施している機関（協働機関を含む。）からの申請は認めません。

調査分析

➤ 「調査分析」では、例えば以下のような取組を支援。

（海外の大学・研究機関等における女性研究者の活躍促進に向けた取組）

- 人事選考（新規採用、上位職への登用等）における意識改革の取組（「無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）」解消に向けた取組、教員評価等に関する取組も含む）に関する調査・分析
- 女性研究リーダー育成の取組に関する調査・分析
- 女性研究者の次世代（大学院博士課程学生、若手研究者）育成の取組に関する調査・分析

調査分析

1. 実施体制の妥当性、効率性

- 人員・組織体制が整っており、業務管理を適切に遂行できる体制を有しているか
- 人員・組織体制について取組を適切に遂行するために必要な知識技能、ノウハウ、実績を有しているか
- 代表機関と共同実施機関において、取組を円滑に行うための連携体制を有しているか

2. 取組内容の妥当性、効率性

- 提案内容が、本調査分析のテーマの趣旨・目的と合致しているか
- 目的の遂行に向けて、意欲的かつ具体的であり、達成可能な計画が提案されているか
- 代表機関と共同実施機関での状況に加えて他の研究機関や全国的な状況も視野に入れるなど、妥当な現状分析のもとで適切な課題設定がされているか
- 当該課題及び女性研究者の総合的な活躍促進に資する具体的な知見を得ることができるよう計画されているか

3. 期待される成果の妥当性、卓越性

- 提案された課題設定及び取組の目的・内容と整合性のとれた、具体的な成果が想定されているか
- 我が国における国・各研究機関等のレベルでの具体的な活用方策や、我が国の女性研究者の活躍促進及びその環境整備に対してどのように貢献するかが明確となっているか

既選定機関における重複申請の制限（公募要領 P.17）

選定年度・類型 (令和4年度は同時申請の類型)		令和4年度公募（申請可：○、申請不可：×）		
		女性リーダー育成型※1	特性対応型※2	調査分析
平成27年度	特色型	○	○	○
	連携型	○	○	○
平成28年度	特色型	○	○	○
	牽引型	○	○	○
平成29年度	特色型	○	△	○
	牽引型	○	△	○
平成30年度	牽引型	○	△	○
	先端型	○	△	○
	全国ネットワーク	○	△	×
令和元年度	牽引型	○	△	○
	先端型	○	△	○
	調査分析	○	○	
令和2年度	牽引型	○	△	○
	先端型	○	△	○
	特性対応型	○		○
	調査分析	○	○	
令和3年度	牽引型	○	△	○
	先端型	○	△	○
	特性対応型	○		○
	調査分析	○	○	
令和4年度	女性リーダー育成型		×	○
	特性対応型	×		○
	調査分析	○	○	

※1 令和3年度以前に本事業に採択されていても、既存事業の取組内容及び補助対象経費の計上について、明確に切り分けることができる場合には重複申請が可能です。また、博士後期課程在籍の女子学生へのフェローシップ制度を構築する場合、国費により支援を受けている学生に対しては支援できません。

※2 博士後期課程在籍の女子学生へのフェローシップ制度を構築する場合のみ、既に牽引型・先端型・特色型を実施している機関は、特性対応型との重複申請が可能(△で表示)。ただし、国費により支援を受けている学生に対しては支援できません。

令和3年度までに事業を終了した機関は、博士後期課程在籍の女子学生へのフェローシップ制度を構築する場合のみ「特性対応型」に申請可能です。なお、この場合は、「特性対応型」の①、②、⑤に係る経費のみ補助することとします。

共通

- 審査は（本事業の業務委託先である）「国立研究開発法人科学技術振興機構」に設置する、有識者等によって構成される「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ委員会」において、書面審査及び（必要に応じて行う）面接審査とその後の委員による合議により実施します。
- 選定機関は、当該委員会による審査結果を踏まえ、文部科学省において決定します。
- 多様な機関における取組を促進する観点から、審査結果が同等の場合、過去に本事業と同様の趣旨の事業※¹に選定されたことのない機関からの提案を優先することがあります。

※ 1. 女性研究者支援モデル育成、女性研究者研究活動支援事業、女性研究者養成システム改革加速、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ

目次

1. 概要

2. スケジュール

3. 参考資料

共通

令和4年 4月 公募説明会（Web上での開催）

6月17日（金）15時【期限厳守】公募締切り

6月下旬～8月上旬 審査（書面、面接）

8月中旬 選定結果の決定・通知

8月下旬 交付申請等

9月上旬 交付決定

※上記予定は変更の可能性があります。

目次

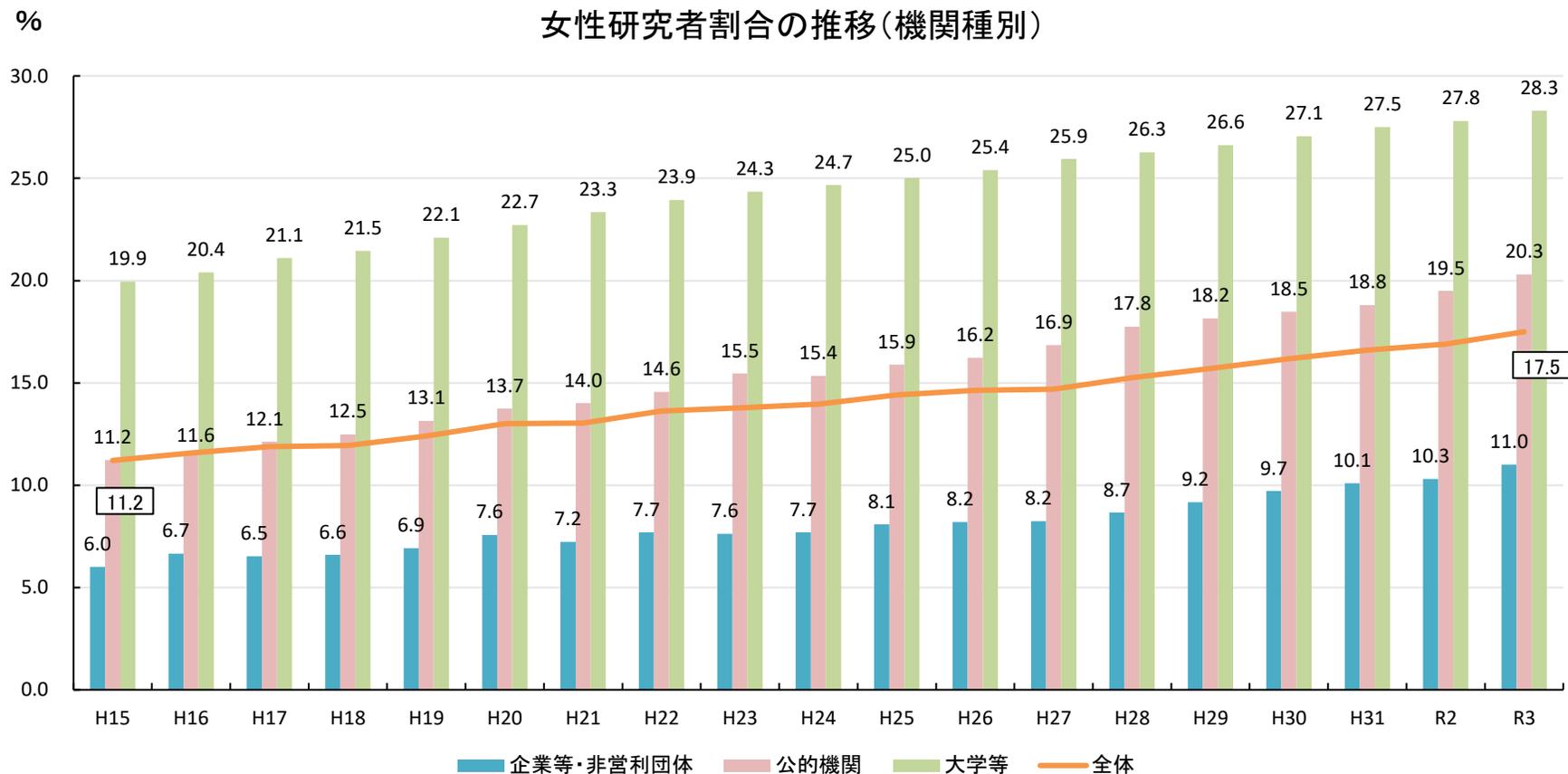
1. 概要

2. スケジュール

3. 参考資料

女性研究者割合の推移(機関種別)

研究者総数に占める女性研究者割合は大学等が一番高く、公的機関、企業等の順に低くなっている。



(出所)総務省「2021年(令和3年)科学技術研究調査」

(注) 本調査における(日本の)「研究者」とは、大学(短期大学を除く。)の課程を修了した者、又は、これと同等以上の専門的知識を有する者で、特定のテーマをもって研究を行っている者としており、大学その他、公的機関や企業等における研究者も調査対象。大学における研究者には、教員(教授、准教授、講師及び助教)その他、医局員や大学院博士課程の在籍者等も含めて調査・集計している。

大学等における自然科学系の女性研究者割合について

	自然科学												
	計	理学						工学					
		計	数学・物理	情報科学	化学	生物	その他	計	機械・船舶・航空	電気・通信	土木・建築	材料	その他
総数	207,230	31,124	10,972	4,753	4,359	7,427	3,613	44,213	7,594	11,058	7,424	3,069	15,068
女性 Female	54,009	4,791	969	617	663	1,873	669	5,516	510	1,029	1,341	341	2,295
	26.1%	15.4%	8.8%	13.0%	15.2%	25.2%	18.5%	12.5%	6.7%	9.3%	18.1%	11.1%	15.2%

先端的、産業ニーズが高いと考えられる分野においても、未だ女性の割合が低い状況。

※1 出典：総務省「科学技術研究調査報告」（令和3年）

※2 研究本務者には、「教員」、「大学院博士課程の在籍者」、「医局員」、これら以外の「その他の研究員」（大学の課程を修了した者又はこれと同等以上の専門的知識を有し、特定のテーマをもって研究を行っている者）が含まれる。

※3 大学等には、国公立の大学、短期大学、高等専門学校、大学附置研究所、大学共同利用機関等が含まれる。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 選定機関一覧

平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度			令和元年度			令和2年度				令和3年度		
特色型	連携型	特色型	牽引型	特色型	牽引型	先端型	牽引型	全国ネットワーク中核機関(群)	先端型	牽引型	調査分析	先端型	牽引型	特性対応型	調査分析	先端型	特性対応型	調査分析
7件	5件	7件	5件	5件	4件	3件	2件	1件	5件	5件	1件	4件	2件	2件	1件	2件	2件	2件
富山大学	山形大学 (大日本印刷株式会社、山形県立米沢栄養大学)	東北大学	岩手大学 (弘前大学、八戸工業高等専門学校、一関工業高等専門学校、農業・食品産業技術総合研究機構、株式会社ミクニ)	群馬大学	金沢大学 (富山県立大学、YKK株式会社)	宇都宮大学	横浜国立大学 (大成建設株式会社、帝人株式会社)	大阪大学 (東京農工大学、日本アイ・ピー・エム株式会社)	岡山大学	北海道大学 (室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社)	情報・システム研究機構 (人間文化研究機構)	千葉大学	山梨大学 (シミックホールディングス株式会社、株式会社はくばく)	兵庫医科大学	名古屋大学 (岐阜大学、国立女性教育会館)	金沢大学	広島大学	九州大学 (東京工業大学)
岡山大学		茨城大学		埼玉大学		神戸大学			九州大学			新潟大学		久留米大学		東京女子医科大学	名古屋大学	同志社大学 (上智大学)
九州大学		東京芸術大学		名古屋大学	広島大学 (マツダ株式会社、デルタ工業株式会社、一般財団法人国際開発センター)	国立循環器病研究センター	徳島大学 (香川大学、愛媛大学、高知大学、鳴門教育大学、徳島県立工業技術センター、徳島県立農林水産総合技術支援センター、アオイ電子株式会社、協和株式会社)		佐賀大学			鹿児島大学	山口大学 (山陽小野田市立山口理科大学、宇部工業高等専門学校、宇部興産株式会社、株式会社トクヤマ徳山製造所)					
長崎大学	千葉大学 (東邦大学、量子科学技術研究開発機構)	宮崎大学	筑波大学 (産業技術総合研究所、日本アイ・ピー・エム株式会社)	名古屋工業大学					長崎大学	長岡技術科学大学 (長岡工業高等専門学校、株式会社イトラスト)		立命館大学						
琉球大学	東京医科歯科大学	東京女子医科大学	東京農工大学 (東京外国語大学、国際農林水産産業研究センター、首都圏産業活性化協会)	九州工業大学	大分大学 (大分工業高等専門学校、フンドーキン醤油株式会社、三和酒類株式会社、三井住友建設株式会社)				琉球大学	奈良女子大学 (奈良工業高等専門学校、武庫川女子大学、株式会社プロアシスト、帝人フロンティア株式会社、佐藤薬品工業株式会社)								
大阪府立大学	順天堂大学 (株式会社ニッピ)	立命館大学																
国立高等専門学校機構	新潟大学 (株式会社タケショー)	理化学研究所	電気通信大学 (津田塾大学、日本電信電話株式会社)		大阪市立大学 (大阪教育大学、和歌山大学、積水ハウス株式会社)					島根大学 (島根県立大学、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校)								
	岐阜大学 (岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アピ株式会社)		大阪大学 (医薬基盤・健康・栄養研究所、ダイキン工業株式会社)							日本医科大学 (日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社)								

※特色型、連携型、牽引型、先端型、全国ネットワーク中核機関(群)、特性対応型における補助事業期間は6年間(うち補助金による支援は3年間)。調査分析における補助事業期間は2年間。
 ※()内は、連携型、牽引型、調査分析における共同実施機関、全国ネットワーク中核機関(群)における協働機関。

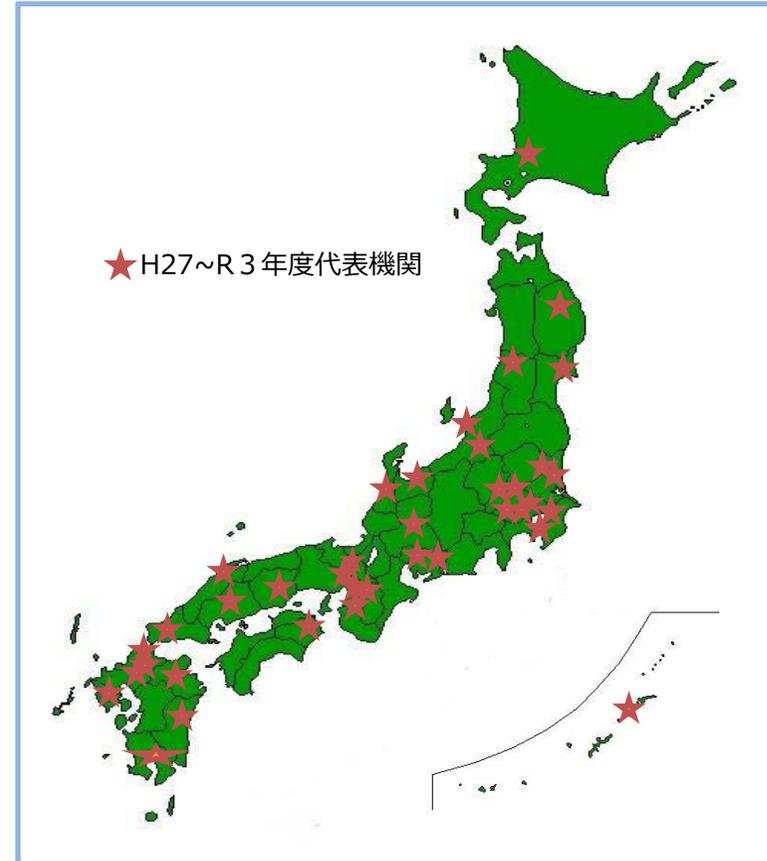
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」選定状況

＜選定状況＞

(全国ネットワーク中核機関(群)及び調査分析を除く)

	特色型	牽引型(連携型)		先端型	特性 対応型
		代表 機関	共同実施 機関		
H27	7	5	10	-	
H28	7	5	14	-	
H29	5	4	12	-	
H30	-	2	10	3	
R1	-	5	17	5	
R2	-	2	6	4	2
R3	-	-	-	2	2
小計	19	23	69	14	4

＜選定機関の広がり＞



計 129機関

<女性研究者が活躍できる研究環境の整備>

○女性研究者支援モデル育成

※科学技術振興調整費のプログラムの一つとして実施
(H18～24年度(新規採択は、H18～22年度))

○女性研究者研究活動支援事業

(H23～28年度(新規採択は、H23～26年度))
研究とライフイベント(出産、子育て、介護)との両立に配慮した研究環境の整備及び研究力向上のための取組を行う大学等を支援。

<女性研究者の採用・養成>

○女性研究者養成システム改革加速

※科学技術振興調整費のプログラムの一つとして実施
(H21～26年度(新規採択は、H21～22年度))

女性研究者の採用割合が低い分野(理・工・農学系)に女性研究者を採用することを通じ、女性研究者の採用・養成システムの構築・改革を目指す大学等を支援。

※H26.6に行政事業レビュー(公開プロセス)を実施

(行政事業レビューでの指摘等を踏まえた課題と対応)

- ・機関における組織全体の取組として定着していない
- ・他機関への取組の普及が不十分
- ・柔軟かつニーズに沿った支援が必要

- ⇒ 機関としての(中期計画等と関連した)目標・計画の設定・公表、補助終了後の自立的運営の確立
- ⇒ 他機関を牽引する先進的な取組を支援
- ⇒ 研究力向上を通じた女性リーダー育成を支援メニューに追加

○ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (H27年度～)

研究と出産・育児・介護等との両立、女性研究者の積極採用や研究力向上を通じた女性リーダーの育成等に関する機関としての目標・計画を設定し、補助終了後の自立的運営を前提に優れた取組を実施する大学等を支援。

文部科学省における女性研究者関連施策の変遷

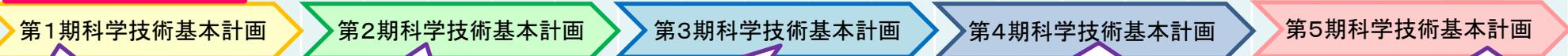


文部科学省

H8 H9 H10 H11 H12 H13 H14 H15 H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30 R1 R2

○科学技術基本法の公布・施行

科学技術基本計画



「女性の研究者等への採用機会等の確保及び勤務環境の充実」

第1期の方針を引き継ぐとともに、「出産後の研究開発活動への復帰の促進」を追記。

女性研究者の採用割合の目標値を掲げる。(自然科学系全体として25%(理学系20%,工学系15%,農学系30%,保健系30%))

女性研究者の採用割合の目標値を引き続き掲げる。(自然科学系全体として25%の早期達成とともに、30%まで高めることを目指す(理学系20%,工学系15%,農学系30%,医学・歯学・薬学系合わせて30%))

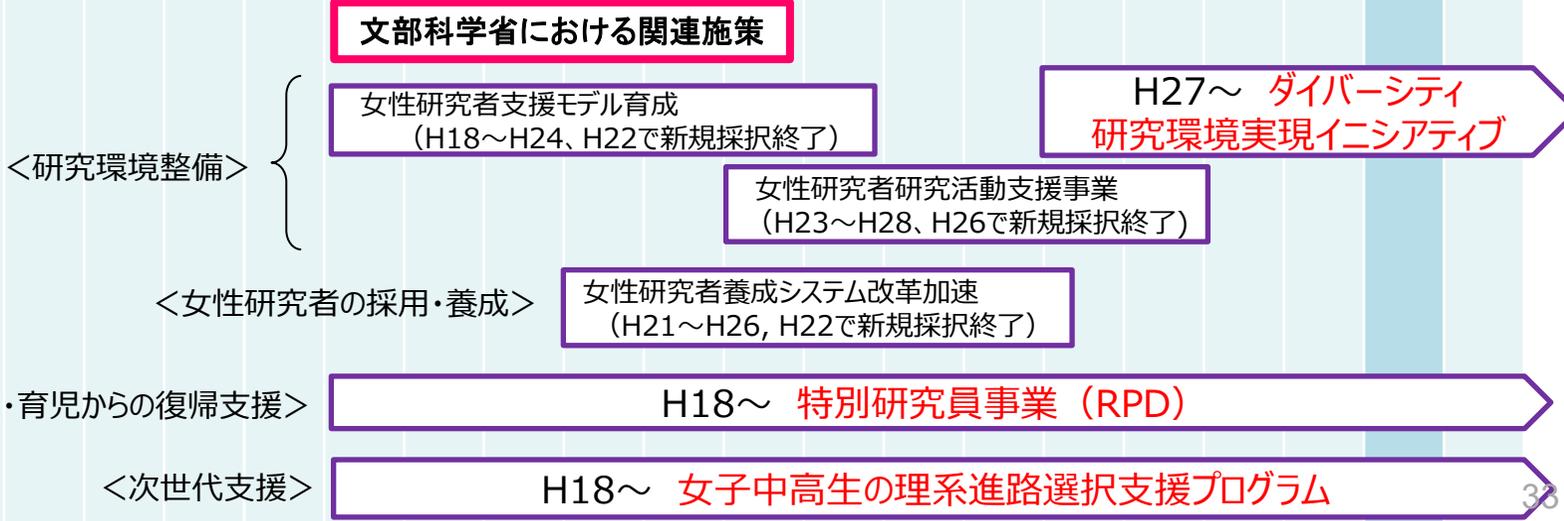
女性研究者の採用割合の目標値を引き続き掲げる。(自然科学系全体で30%, 理学系20%,工学系15%,農学系30%,医学・歯学・薬学系合わせて30%)

○男女共同参画社会基本法の公布・施行(H11.6.23)

男女共同参画基本計画



○女性活躍推進法の公布・施行(H27.9.4)



お問い合わせ先

<事業内容全般に関すること>

文部科学省 科学技術・学術政策局

人材政策課 人材政策推進室

電話：03-6734-4021

E-mail：kiban@mext.go.jp

<書類作成・提出に関すること>

科学技術振興機構 科学技術プログラム推進部

科学技術人材育成費補助事業 審査担当

電話：03-5214-7521（代）

E-mail：stpp-koubo@jst.go.jp